

舞鶴・中国定期コンテナ航路の再開

京都舞鶴港と中国を結ぶ新たな定期コンテナ貨物航路が再開されました。平成17年12月から休止されていた定期航路の再開となるもので、4月10日、第1船「レオ・アイランド号」(6,251ト)が舞鶴港に入港。第二埠頭に接岸しました。

運航会社は、「ツネイシホールディング株式会社神原汽船カンパニー」(本社:広島県福山市)。フルコンテナ船2隻によるローテーションで、上海(火)ー青島(木)ー大連(土)ー舞鶴(火)ー新潟(水)ー富山(木)ー金沢(金)ー境港(水・土)ー上海(日)のウィークリーサービスが行われます。(☆舞鶴港へは、毎週火曜日に入港します。)

京都舞鶴港は、経済発展の著しい中国の主要な3港から直接寄港するファーストポートとなるため、中国からの輸入については有利な航路となります。上海には、京都企業をはじめ多くの企業が進出していることから、集荷活動を強力に進めることにより同港の貨物量の大きな伸びが期待されます。更に、近畿における日本海側のゲートウェーとして、京阪神からも近距離となり、関西経済圏を結ぶ物流ルートとしての発展も期待されます。

入港を記念して行われた歓迎式では、舞鶴市齋藤彰市長が「2005年に日中定期航路サービスが休止となつて以来、今日までの悲願がかなった。舞鶴港が関西経済圏における日本海側の門戸港として名実ともに発展できるよう、今後も積極的なポートセールスに努めたい」とあいさつ。

神原汽船の城暁男社長執行役員は「当社の日本海航路再編を機に舞鶴港への追加寄港を決めた。7航路11隻で運航する



クイーンまいづるから花束贈呈

当社にとって12港目となるが、神戸港や大阪港など他府県の港湾と競合する中で、京都府の地域の活性化と経済の発展に貢献したい」と述べられました。

また、「レオ・アイランド号」のアーサー・ロコ船長には、入港記念盾を舞鶴市長から、花束をクイーンまいづるから贈呈されました。

引き続き、京都府麻生副知事や舞鶴商工会議所河田会頭、舞鶴市議会林議長も加わりテープカットが行われました。

歓迎式のあと、大連からの住宅資材など40フィートコンテナ16本、20フィートコンテナ1本が荷揚げされました。

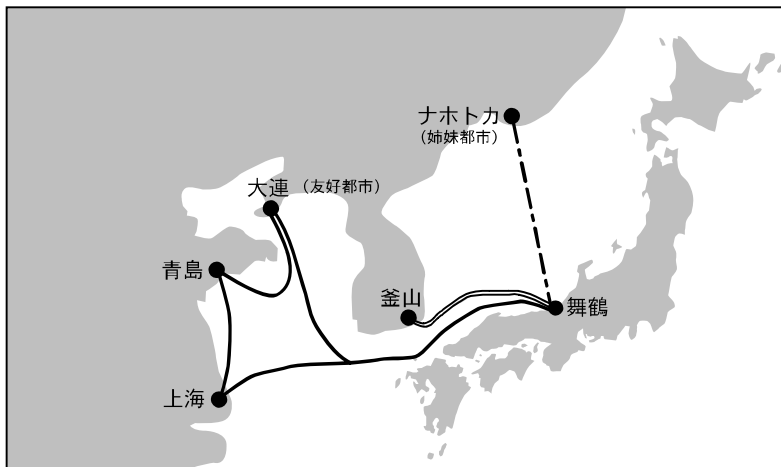


テープカット(左端河田会頭)



接岸直後のレオ・アイランド(Leo-Island)号

中国定期航路のほかにも、現在、同港と対岸諸港を結ぶ韓国定期航路(主にガラス、船舶用部品、エンジン部品等の輸出入)、ナホトカ航路(主に木材の輸入)が開設されています。



京都舞鶴港と対岸諸港を結ぶ各航路

- 中国定期航路 (—) (～上海・青島・大連/週1便)
- 韓国定期航路 (==) (～釜山/週1便)
〔～中国・東南アジア・米国・欧州等〕
〔世界各地域ヘトランシップサービス〕
- ナホトカ航路 (---) (～ナホトカ)